

質疑応答一覧（2026年9月14日時点）

地域説明会にて、参加者の方からいただいたご意見・ご質問をまとめました。

1.現在の学校環境や制度について		
項番	質問	回答
1	なぜ30人学級ではなく、35人学級を前提にしているのか。	国の法律・基準に基づく学級編制を前提としているためです。小学校は全学年で35人学級、中学校は経過措置の段階にあります。30人学級は教育上の意義がある一方、実施にはより多くの教員確保が必要なため、現時点で藤沢市独自の基準にはしていません。
2	学区変更後、学級数はどう変わるのか。	2040年時点の推計では、変更しない場合は31学級超の学校が残る見込みですが、変更後は最大でも明治小学校27学級程度、辻堂小学校25学級程度に収まる見込みです。適正規模は12～24学級を目安としています。
3	特別教室やプレハブ校舎はどうなるのか。	学級数が抑えられれば、今は普通教室に転用している図工室などの特別教室を元に戻し、プレハブ校舎は撤去していく方針です。
4	学区変更で教育環境は改善するのか。	今回の通学区変更により全体として学校の学級数が均されるので、教育環境はより良くなるものと考えています。
2.児童生徒数の推計・人口増への対応		
5	過去の児童生徒数の推計と実績は比較しているか。	過去の推計ほど増えていない地域がある一方、辻堂周辺など局地的に増加している地域があります。
6	今後も辻堂・南部地域の人口増を見込んでいるのか。	市の人口推計や土地区画整理事業等を踏まえて判断しています。村岡新駅周辺など、一定の人口増が見込まれる地域は、そのことをふまえ、今回は学区変更の対象外としています。
7	将来の児童数推計は見直すべきではないか。	学校適正規模・適正配置の取組は今後も継続するものであり、各時点での児童生徒数推計を元に取り組んでまいります。
3.きょうだい特例		
8	きょうだい特例とは何か。	きょうだいが小学校（中学校）に在籍する期間が重なる場合、きょうだいのどちらかの学校に合わせて通学できます。ただし、在学期間が重ならない場合は対象外です。

9	きょうだい特例はいつ申請するのか。	新一年生の入学年の1月に就学指定校通知がご自宅に届きますので、通知が届いてから3月末までの間で、学務保健課にてお手続きください。（例 2027年4月入学＝2027年1月就学指定通知が届く）
10	新しい学区が正式決定する前に、先に変更できるか。	学級編制や教員配置に影響するため、正式決定前の前倒し変更は認めない方針です。
4. 学区変更・学校選択制		
11	旧学区・新学区を自由に選べる経過措置はあるか。	設けない予定です。自由選択にすると入学者数が不確定になり、学級編制や教員配置に影響するためです。
12	学区変更案は今後修正される可能性はあるか。	個別の要望だけでは難しいですが、重大な見落としや想定外の大規模開発で予定している学校での受け入れ超過が判明した場合は修正の可能性があります。
13	令和9年度入学の子どもは、現行の慣例学区を使えるか。	はい。令和9年度は周知期間なので、現行の慣例学区での選択は可能です。
5. 在校生・転入生・引っ越しの扱い		
14	将来引っ越す予定がある場合、先に新住所の学校へ通えるか。	就学指定通知が発送されるまで（入学年の1月初旬）に住民登録上の住所が変わっていれば、新住所の通学区域が適用されます。
15	令和10年以降に転入してきた子どもは、新学区の学校になるのか。	基本的には新しい学区の学校になります。転入生への時限的な選択制を設けるかは、今後検討予定です。
6. 指定校変更の理由		
16	通学路の安全性や距離だけで学区変更できるか。	原則として、個人の希望だけでは認めていません。ただし、きょうだい関係、身体的事情（医師の診断書が必要）、留守家庭や学童利用など、客観的理由がある場合は対象となることがあります。詳しくは学務保健課にご相談ください。
17	病気などの事情がある場合はどうするのか。	診断書などの客観的資料をもとに、学務保健課へ個別相談できます。
18	祖父母宅や学童を拠点にする場合はどうか。	一定の条件を満たせば、例外的に学区外就学が認められる場合があります。
19	一人っ子家庭でも、通学の安全性や距離で申請できるか。	単に「近い」「通いやすい」という理由だけでは、原則として認めていません。

7. 再開発・学校新設の経緯

20	過去に行った辻堂駅前再開発（C-X）時に、学校新設の議論はなかったのか。	C-X開発時に「学校新設すべき」との議論は把握していません。一方、SST開発では学校新設を求める意見もあったものの、最終的に新設しない判断でした。
21	なぜ新設ではなく学区見直しなのか。	以前（平成初期まで）は開発に合わせて学校新設を進めていましたが、現在は人口分布の変化もあり、今回は学区の引き直して対応する方針です。